

# ANSHINのデザインプロジェクトのご紹介



「ANSHINのデザインプロジェクト」は“ANSHIN”という価値観が社会に波及することを目的に、デザイン実践と論理研究を両輪とし、学理を創出しようとするプロジェクトです。

「病院のデザイン\*」という授業を進める中で、参加メンバーの“ANSHIN”への関心・問題意識が高まり、当プロジェクトが立ち上がりました。現在は、京都大学大学院工学研究科富田教授、京都市立芸術大学ビジュアルデザイン研究室辰巳教授、京都大学経営管理大学院山内講師を主メンバーとして、企業や医療機関などのご協力のもと、種々な活動を行っております。

## みなさまにとってのANSHINとは？

みなさま、安心とは？と聞かれて何を思われましたでしょうか？安心安全？やさしさ？きずな？ほっとする？

安心は、安全基準などの数値や明確な言葉で定義できるものではなく、みなさまそれぞれ異なった気持ちであると思います。ただ、きっと、うまく説明はできないけど、安心は大切、もっと安心を感じて過ごしていきたい、という気持ちは、多くのかたは感じてらっしゃるのではないのでしょうか。

我々は、安心ではなく“ANSHIN”と表記することで一般用語と区別し、みなさまに“ANSHIN”を再認識してもらいたいと考えております。みなさまがあらためて「“ANSHIN”とは何か」を考えたとき、そこに新たなANSHINの価値が生まれてくると考えております。



イメージキャラクター たくあん先生

## 我々のとりくみ

様々な企業や団体においても、安心に関する取り組みは着目されてきております。しかし、安心は、安全のように基準化することができない、基準化できないからこそ活動主体のリスク負担が大きい、また安易に安心という言葉を使うことで誤解を生じる危険性など、個々で活動を行っていくには困難も伴います。

我々は、“ANSHIN”という共通の名前での「デザイン実践」を行うことで認知度を高め、また、“ANSHIN”を単なるブランド名で終わらせず、それら実践についての「論理研究」を併せて行っていくことで学理を創出し、活動の意義を社会に発信していくことを狙っております。学理として成立させることで、また多くの実践が生まれ、またその実践から論理を記述する、そのような発展を目指しております。

実践を論理として記述する⇔論理を実践に反映する

### <デザイン実践>

各参加者においてANSHINのデザインの実践を活動を行っております。

例：ベッドサイドポケットプロジェクト

「病院のデザイン\*」で2012年発案のベッドサイドポケットについて、事業化を目指し、洛和会丸太町病院様のご協力によりモニター活動などを実施しております。



ベッドサイドポケットモニター品

その他、ハレの日のための嚥下食プロジェクト、Tシャツプロジェクトなど、各種プロジェクトも進行中です。

### <論理研究>

各デザイン実践のプロジェクト内でも随時論理としての記述は行っておりますが、別に定期的な研究会も行っております。

各分野の専門家や企業からご参加いただき、話題提供や意見交換を行っていかうと考えております。



第0回セミナーの様子  
平成26年10月8日



概念“ANSHIN”とは何か

## \*「病院のデザイン」について

京都市立芸術大学において2010年度から行われてきた「病院のデザイン」という授業です。2013年度は京都大学デザインスクールの共同授業となりました。

まず学生さんが病院イメージというテーマで紙しばいを作成し、その後病院などの現場に直接入り込んでニーズ発見やデザインを行う、という授業です。

まず紙しばいを作成することで、デザイナーの主体性を残したデザインが可能となり、それがANSHINを生んでいるのではないかと、この仮説が生まれました。



紙しばいの一例



2012年発案のベッドサイドポケット